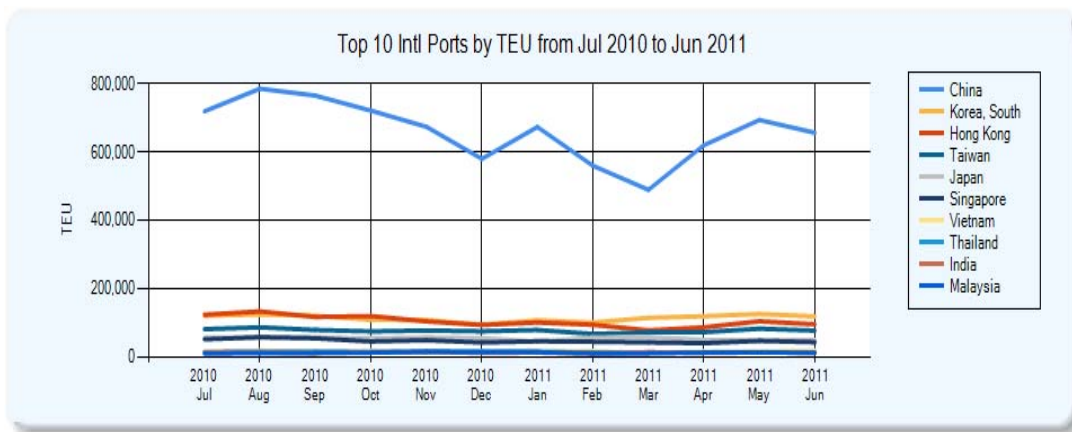


米国通関統計 6 月度輸入実績速報

ゼポ発表；アジア発米国向けコンテナ 6 月は前月比 5.3%減、前年比も 10.5%減

中国は前月比 5.4%減， 前年比も 9.4%減。韓国、香港、台湾も減少。



(6 月度月別トレンド；Top Line 中国)

Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

Zepol (ゼポ) Corporation (本社・米国ミネアポリス [www.zepol.com](http://www.zepol.com)) は、7 月 8 日、米国税関 AMS・B/L データを基に、米国海上輸入 6 月度実績をまとめました。

それによると、アジア主要 10 カ国発 (B/L・Loading Port・母船積地ベース・実入り TEU) は、先月に比べて 5.3%の減少で前年同月比では 10.5%のマイナスで米国輸入 TEU 全体でも 6 月はそれぞれ 4.4%, 6.7%のマイナスとなりました。(別表 1 参照)

主力の中国は 4 月・5 月の上昇の後、6 月は前月比でマイナス 5.4%、前年比でも 9.4%のマイナスとなりました。

次位グループの韓国、香港、台湾も前月比、前年比ともにマイナスで、日本も前月比では 2.3%増で 5 月のマイナス分(2.5%)を戻した形ですが、前年比では 12.5%のマイナスでした。

ベトナムとタイだけは前月比プラス(それぞれ 10%, 2.1%)でしたが、シンガポール、インド、マレーシアは前月比マイナス(それぞれ 8.7%, 7.1%, 8.2%)でした。

10 カ国の中の前年比で、ベトナムとマレーシアだけはそれぞれ 34.5%, 20%のプラスを示しました。マレーシアは (前月比ではマイナスでしたが)、釜山経由でも連続して前月比、前年比とも大幅増で下位ながら上昇傾向が目につきます。

別表1 アジア主要10カ国発 米国向け6月 TEU (母船積地ベース・実入り)

USA Import from Asia Top 10 – June 2011			
Top 10 Countries Loading Port ベース	June 2011 (TEU)	前月比 (%)	前年比 (%)
1. China	656,955	-5.4	-9.4
2. Korea	118,846	-5.5	-7.1
3. Hong Kong	95,736	-8.2	-21.0
4. Taiwan	77,076	-6.8	-9.9
5. Japan	50,011	2.3	-12.5
6. Singapore	43,018	-8.7	-25.1
7. Vietnam	19,511	10.0	34.5
8. Thailand	13,482	2.1	-10.1
9. India	12,341	-7.1	-10.2
10. Malaysia	12,055	-8.2	20.0
Asia Top 10 Total ( WW Share 67%)	1,099,030	-5.3	-10.5
USA Total (WW)	1,673,451	-4.4	-6.7

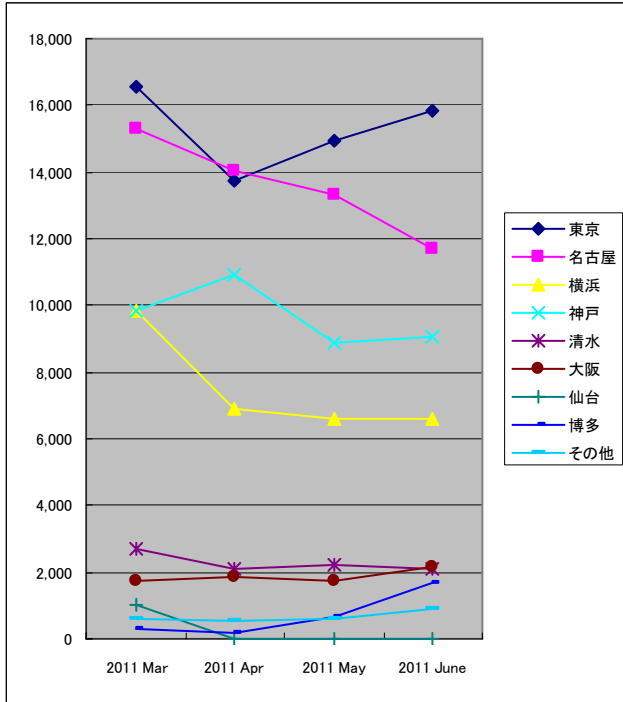
Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

別表2 釜山港 T/S 6月 国別 TEU

Place Receipt 荷受地ベース	June 2011 TEU (Share %)	前月比 (%)	前年比 (%)
1. 韓国 自国分	52,431 (48.4)	-8.6	-2.7
2. 中国	42,237 (39.0)	2.5	-6.7
3. 日本	4,530 (4.2)	-20.5	6.9
4. インドネシア	2,440 (2.3)	14.4	44.3
5. ベトナム	1,972 (1.8)	-1.4	-6.6
6. マレーシア	1,290 (1.2)	18.8	81.1
7. インド	864 (0.8)	23.1	410.2
8. 台湾	788 (0.7)	-24.5	-53.3
All Others	1,778 (1.6)	-20.5	-24.4
釜山積み合計	108,339 (100)	-4.5	-3.4
韓国積み合計	118,845	-5.5	-7.8

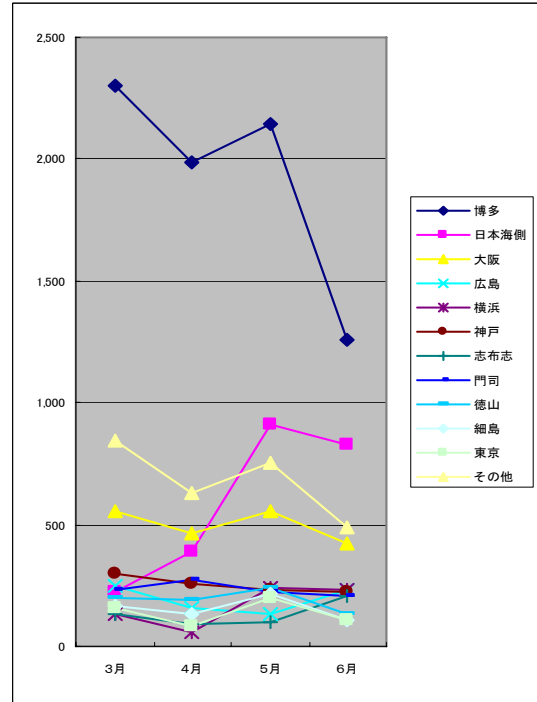
Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

別表-3 日本積 震災後の荷動き



Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

別表-4 日本発 釜山港TS震災後



Source; Zepol Corporation-TradeIQ\*

日本積について、震災影響が顕著だった4月(-13%)、5月(-2.5%)と減少したレベルを上記の通り6月は少し(2.3%)戻りましたが前年比では二桁減(-12.9%)でした。これを上位輸出企業(自動車部品、タイヤ、建機)35社のTEU合計を前月比で見ると4月末(-17.7%)、5月中間(-5%)から5月末9.9%増でしたが、今回6月実績の合計では20%減(自動車部品 -24%、タイヤ -29.8%、建機 +27.5%)で、名古屋港、清水港などの推移(別表3)からも自動車業界での震災の影響が続いていることを伺わせます。

釜山港経由は震災影響回避で日本海側6港(6港=新潟・苫小牧・秋田・金沢・直江津・富山)が5月には前月比で28%伸びましたが6月は合計では約10%減りました。(別表-4参照)

ただし、新潟港だけは+24%と連続増加でした。

博多港と苫小牧港分の減少で日本の釜山港T Sシェアは4%台に戻りました。

(以上)

## \*\* Zepol (ゼポ) TradeIQ とは ???

- \* Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS (Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol (ゼポ) が独自開発した検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データで、通関後約1週間で分析結果を把握可能としました。
- \* 毎日数万件に及ぶ全米各港からの B/L 情報が 2003 年以来、既に 9 千万件蓄積されており、米国のデータベースにユーザーはどのパソコンからでも簡単にアクセスし、検索・作表・ダウンロードが可能で、IT のパワーをフルに活用した速報性の高い分析ツールとして評価されています。
- \* ロジステック関連 IT ソリューション・プロバイダーとして、Zepol は 2011 年発表の “Top 100 Logistics IT Providers” にも選ばれています。  
([www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml](http://www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml))
- \* PC 画面上で B/L #, Shipper, Consignee, Ports, Carrier, Products, Weight, TEU などの個別 B/L 記載内容のマトリックス分析が簡単に出来ます。
- \* 又、Container Type, LCL/FCL, Empty/Loaded, FROB 貨物、などの区分も可能で目的に応じた分析が出来ます。

- \* 毎月、約 40 日後に発表される**商務省統計**に先立ち、前月の**米国輸入動向**が翌月の**上旬**には把握できる「**一番早く公表される米国貿易統計**」です。

(ただし、公式データである AMS 記載内容を忠実にそのままデータベース化し、TEU もそれに基づいて一部推計していますが、もしも AMS 記録内容に誤りとかダブルカウントなどがあれば、その通り含まれる可能性があります)

- \* 統計情報としての**公益的な情報価値**に加えて、米国情報公開法により入手可能となっている**個別 B/L 記載データ**は**希少価値の高いファクト情報源**です。

ゼポのクライアント企業、ポートオーソリティなどを含む公的機関に於いては、例えば国別、港別のトレンド分析から、すぐに同じ PC 画面上で荷主、相手港、輸入先、船社/NVOCC、品目・数量など**アクチュアル情報**への掘り下げを行いアクションに結び付けています。

統計分析ツールであると同時に**市場競争の為のツール**として活用されています。

([www.zepol.com](http://www.zepol.com))

本リリースの内容と Zepol (ゼポ) に関するお問い合わせ先 :

日本 : Zepol Japan [mnanseki@zepol.jp](mailto:mnanseki@zepol.jp)